○国立研究開発法人森林研究・整備機構　施設整備費補助金（拡充）

【令和４年度予算概算決定額　289,768（216,631）千円】
（令和3年度補正予算額　49,482,001千円の内数）

＜対策のポイント＞
森林・林業に係る試験・研究や林木の優良な種苗の生産・配布等に必要な施設の改善等を行うことにより、これらの業務の円滑な実施を図ります。

＜事業目標＞
○　森林及び林業に関する総合的な試験・研究及び林木育種事業を着実に推進。
○　国立研究開発法人森林研究・整備機構中長期目標を達成。

＜事業の内容＞

○　森林研究・整備機構の業務の適切かつ効率的な実施及び職員の安全・安心の確保のため、**業務実施上の必要性、既存施設の老朽化等を勘案し、業務運営に必要な次の施設の整備**を行います。

- 木の酒研究棟新設
- 木質耐震・快適性工学実験棟ビルドインチャンバー更新
- きのこ遺伝資源開発棟発生室改修
- 北海道支所研究本館他放送設備等更新

＜ 事業の流れ ＞

国 → 交付 → 国立研究開発法人森林研究・整備機構

＜事業イメージ＞

木の酒（試作品）とその製造機械

○　**木の酒研究棟新設**
中長期計画に掲げる木の酒の普及に向け、既に確立されつつある製造技術の移転を見据え、飲用の安全性確保が必要となる実証研究の段階に移る。そのために、森林総合研究所の敷地内に衛生的かつ室温管理の可能な製造施設を新設し、分設されている製造機械(粉砕機械・発酵機械・蒸留機械)を移設するとともにこれらの制御設備を導入する。

現有の実験空間(ビルドインチャンバー)

○　**木質耐震・快適性工学実験棟ビルドインチャンバー更新**
木材・木質空間が人の健康や情緒に及ぼす影響を科学的に証明することは社会的要請も大きく喫緊の課題であるが、築20年を超える現有施設は度重なる故障により稼働に支障が生じている。このため、木質耐震・快適性工学実験棟の実験空間(ビルドインチャンバー)を更新し、温湿度・照明等の精密制御が可能な、より生活空間に近い実験環境を実現する。

［お問い合わせ先］林野庁研究指導課（03-6744-2312）